

めざせ、ステージデビュー!

特集 アマチュア音楽家のための

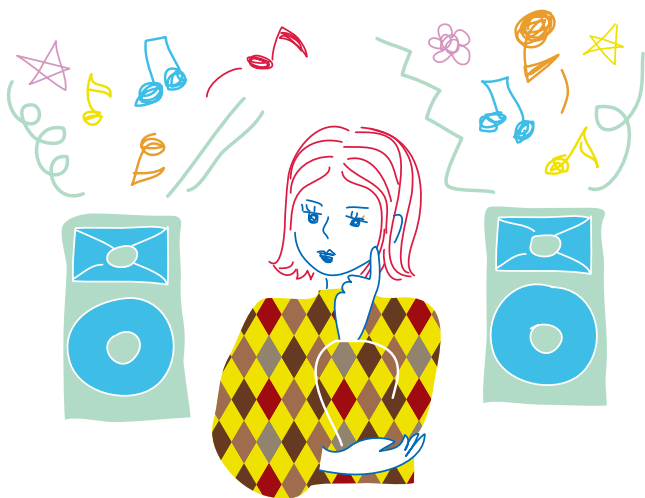
ライブ  
当日編

# ライブ・コンサートの作り方 vol.2

バンドやオーケストラといったグループのメンバーとして、あるいはソロとして。世田谷には、習い事やサークル活動などを通して、思い思いの形で音楽を楽しむアマチュア音楽家がいらっしゃいます。中には、練習や音楽仲間とのコミュニケーションは楽しいけど、そろそろ人前で演奏してみたい! 日頃の成果を披露してみたい! と考えている方も少なくないのでは? ここでは、音楽活動における次のステップとしてライブ・コンサートを開催してみたいけど、どうやったら実現できるのか分からない……とお悩みの方々に、前後編にわたり「ライブ・コンサートの作り方」と題してそのノウハウをご紹介します!

## 1 楽器搬入&段取りの最終チェック

当日会場入りしたら、何はともあれ現場にいる関係者に挨拶を! この日の成功は気持ちの良い挨拶からと心得ましょう。続いて楽器搬入を済ませたら、会場の担当者と段取りの最終チェック。この際、楽屋やトイレの場所、更衣室の有無といった部分も確認しておくといいでしょう。また、会場によっては、ライブのセットリスト(演奏する曲名と曲順を記した一覧表)や受付で必要となる招待客リストの提出を依頼される場合もあるので、予め用意しておくことをオススメします。



## 2 リハーサルの心構え

リハーサル=練習時間ではありません。ライブ本番のサウンドを確認&調整するのが目的なので、練習は当日までに済ませた状態で臨みましょう。リハーサルに必要なのは、各パートのサウンドチェック、外音(客席の音)とモニター音のバランスチェック。演奏に集中するのではなく、音のバランスに注意を払ってください。セットリストの曲順に縛られず、バランスを確認したい曲をいくつかピックアップして演奏し、モニターの音が聞こえづらい、特定パートの音量が大きいなど、気になった点はPA(音響)さんに伝えて調整してもらいましょう。

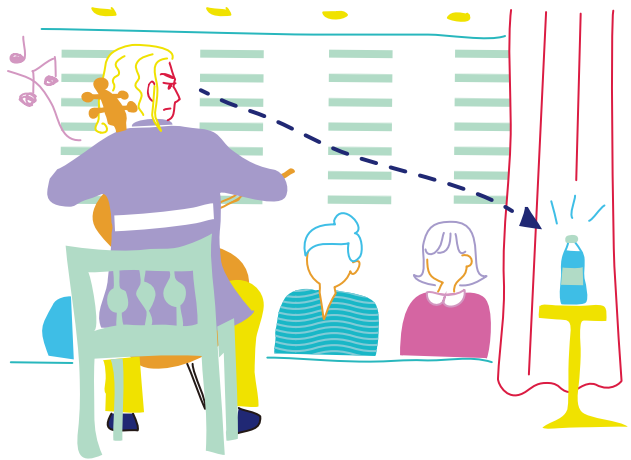


### 3 演奏記録のススメ

もし今後もライブ・コンサートを継続していく予定であれば、自分たちのパフォーマンスの記録を撮っておくことをオススメします。会場によっては、CDやDVDに収録してくれる場合もあるので事前に要確認。自分たちで録音・撮影する場合は、家庭用ビデオやレコーダーといった録音機器を持ち込みましょう。録音した音源を確認することは、自分たちの演奏スキルを客観的に把握し、最適な音のバランスを構築する上で欠かせません。また、今後活動を行う上での成長記録、デモ資料としても利用できます。

### 4 本番までの過ごし方

食事をしたり、衣装を着替えたり、楽屋で休憩したり……、リハーサルを終えてから本番までの過ごし方は様々。しかし、たとえ緊張や不安で胸がいっぱいの状態になったとしても油断は禁物！ 共演者や関係者へのマナーや配慮を忘れてはいけません。楽屋や共有スペースを独占したり、物を散らかしたり、大声で話したりするのは当然ながらNG。演奏以外の部分でイメージダウンしてしまうなんてもったいないと捉え、節度ある行動を心がけましょう。なお、本番までにステージ用の飲み物を用意しておくことベター。本番中は意外と喉が乾くもの、ステージ袖に置いておけば安心です。



### 5 アフターフォローもお忘れなく！

ライブを終えて一息。またやりたい！という意欲が湧いてきたなら、その熱が冷めないうちに、次なるライブへ向けてのアフターフォローを行きましょう。運営のために必要な収支確認、集客のために必要な来場者へのお礼やフォロー……、地味な作業かもしれませんが、ライブ活動を継続していく上では必要な項目です。また、来場者のリストを作っておくと、次回ライブの告知をする際に役立ちます。ライブ・コンサートは一日にしてならず！ 演奏して終わり、というわけではありません。

「ライブは生もの」。実際に体験しなければその醍醐味はわかりません。はじめは苦労が多いかもしれませんが、まずは一歩を踏み出すことが大切！ きっとあなたの音楽人生が豊かなものになるはずですよ。